

## 季節の先に

白い光に満たされた浜辺に笛をにじませ  
風にあおられる音色のすずろかに

一握の砂のさらさらと  
陽光にきらめく水面のごとく  
流れ落ちる

こぼれ落ちた砂のひとつひとつを  
拾い上げてみせよう  
音色のみを頼りに

この季節の先には想いがある

\*

ひとしきり吹雪く暗い日に  
祈りのみもて書き綴るとき

舞い落ちる白い雪片の  
地面に吸い込まれるように  
消えてゆく

吸い込まれた雪のひとひらひとひらを  
咲かせてみせよう  
その微かなふるえのみを頼りに

この季節の先には温もりがある

\*

野原が花々に彩られはじめた日に  
あらゆる音が蒸発してしまう

髪に、また肩に、  
はらはらと  
蝶の舞うごと

ただひとり笛を吹き  
この無のなかに響かせてみせよう  
お前達の夢見る音だけを

この季節の先には充溢がある

(2001.10.9)